

令和5年度 数学科

教科	数学	科目	数学B	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	改訂版 最新 数学B (数研出版)						
副教材等	改訂版 教科書傍用 3ROUND 数学II+B (数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・ 公式を覚えることは必要ですが、暗記だけに終わらせるのではなく、なぜその公式が成り立つのか、どんな問題でどの公式をどのように使うのかを理解することが必要です。
- ・ 積極的に授業に参加し、分からないところはそのままにせず、先生、友人に積極的に質問しましょう。逆に分かっている人は積極的に分からない人に教えましょう。他人に教えることで、問題のポイントやミスしやすい箇所などに注目することができるので、自分の理解も深まります。
- ・ 教科書の内容は、例題を参考に積極的に練習問題等に取り組み、繰り返しのなかで理解を深めることが大切です。
- ・ 家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

2 学習の到達目標

数列、ベクトルについて理解します。基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにします。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方・考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	数列、ベクトルにおいて、関心をもつとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用しようとする。	数列、ベクトルにおいて、事象の性質や関係を考察し、表現することができる。	数列、ベクトルにおいて、事象を数学的に表現・処理する技能を身につけている。	数列、ベクトルにおいて、基本的な概念、性質などを体系的に理解し、知識を身につけている。
評 価 方 法	授業態度 ノート確認 課題プリント 小テスト 定期考査 観察等	授業態度 ノート確認 課題プリント 小テスト 定期考査 観察等	授業態度 ノート確認 課題プリント 小テスト 定期考査 観察等	授業態度 ノート確認 課題プリント 小テスト 定期考査 観察等
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	平面上のベクトル	第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの和 3. ベクトルの差 4. ベクトルの実数倍 5. ベクトルの成分 6. ベクトルの成分と演算 7. ベクトルの内積 8. 内積の性質	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:ベクトルの意味や演算について、数との類似性に関心を持つ。 b:ベクトルと数との違いや類似性について考えることができる。 c:ベクトルでの演算処理ができる。 d:ベクトルの意味や演算の仕方を理解している。	授業態度 ノート確認 課題プリント 小テスト 定期考査 観察等
		第2節 ベクトルと図形 9. 位置ベクトル 10. ベクトルと図形 11. ベクトル方程式	○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	a:ベクトルを平面図形の性質の考察に活用しようとする。 b:図形の性質の証明や計量について、ベクトルを用いて考察することができる。 c:図形の性質の証明や計量について、ベクトルを用いて行うことができる。 d:位置ベクトルやベクトル方程式の意味を理解している。	授業態度 ノート確認 課題プリント 小テスト 定期考査 観察等
2学期	空間のベクトル	第1節 空間ベクトル 1. 空間の座標 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分と演算 4. ベクトルの内積 5. 位置ベクトル 6. 空間図形への応用	○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a:空間座標やベクトルに関心をもち、それらを空間図形の考察に活用しようとする。 b:空間に拡張した座標やベクトルを用いて、空間図形の性質などを考察することができる。 c:空間での分点や平面上の点の表し方などや空間図形の性質の考察において、座標やベクトルを用いて処理することができる。 d:空間座標やベクトルおよび分点の表記や演算を理解している。また、それを利用している図形の表し方を理解している。	授業態度 ノート確認 課題プリント 小テスト 定期考査 観察等
		第1節 数列とその和 1. 数列 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 6. 和の記号 Σ 7. 自然数の2乗の和	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a:等差数列・等比数列の仕組みに関心をもち、それらを一般項や和の考察に活用しようとする。 b:等差数列・等比数列の仕組みから、一般項やその和を考えることができる。 c:等差数列・等比数列の仕組みから、一般項やその和を求めることができる。 d:等差数列・等比数列の仕組みを理解している。	授業態度 ノート確認 課題プリント 小テスト 定期考査 観察等

※令和3年度以前入学生用

3 学期	数列	8. いろいろな数列の和	○	○			a:いろいろな数列の規則性に関心をもち、それを一般項や和を求める考察に活用しようとする。 b:いろいろな数列の規則を見つけ、一般項やその和を考えることができる。 c:いろいろな数列の規則性を利用して、一般項やその和を求めることができる。 d:いろいろな数列について、その規則性を見つけ、理解することができる。	授業態度 ノート確認 課題プリント 小テスト 定期考査 観察等
		9. 階差数列	○	○	○	○		
		第2節 漸化式と数学的帰納法						
		10. 漸化式と一般項	○	○	○	○		
		11. 数学的帰納法	○	○	○	○		

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:数学的な見方・考え方
c:数学的な技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。